

清期の離宮だつたものであるが、こゝでも亦今更の如く過ぎし清朝の榮華を眼前に髣髴せしめる。萬壽山は昔は龜山と呼ばれたのを乾隆二十五年に皇太后の萬壽節を祝ふ爲に延壽寺を建て、から萬壽山の名に改められたもので、後義和團事件の際英佛聯合軍の砲火の爲に一時荒廢に歸したのを、西太后が恣に海軍擴張費に治定せられた金の大半を割

いて修復したと言ふだけに、水清冽なる昆明湖に配する仁壽殿、玉瀾堂、樂壽堂、排雲殿などの殿堂から、山上の佛光閣、湖畔の石舫の壯麗さは、金銀珠玉の無數の寶物と共に、清朝最後の豪奢を物語る一片の繪卷を見るの感があつて、坐ろに感慨が深い。(未完)

國道と橋梁 (二)

藤田宗光

二、國道橋と延岡

延岡市は宮崎縣が生んだ最初の化學工業都市であり、本縣唯一の新興都市にして、當今大いに世人の注目する處となつたのである。

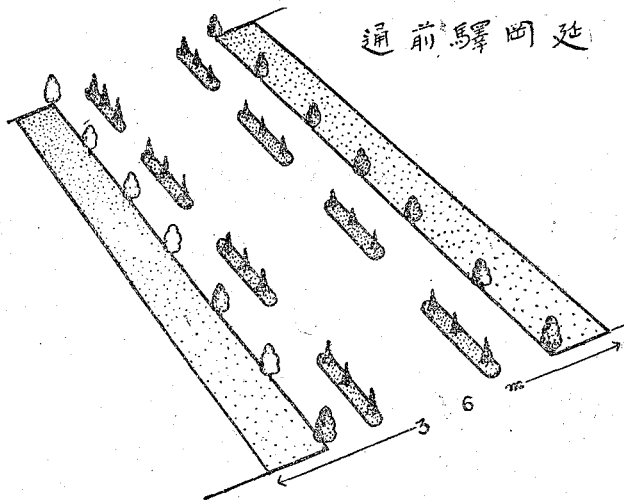
一、延岡市の發展

縣北に於ける物資の集散地として、豊富なる山産物、水

産物、農産物の産出を見、交通の便亦大いに開け、古來より水郷として其名を知らる、水質極めて良好にして最近に至り各種の工場の建設を見るに至り、本縣主要都市となるに至つたのである。

本市の地勢を觀るに氣候極めて溫和にして、天與の風景に富む、北西部は小山岳により圍續せられ、東方一帯は延岡港を初め、洋々たる大平洋に面し、市の中央なる城山城趾並に此の一帯市街地は五ヶ瀬、大瀬の兩河川を以て挾まれ、都市發展上極めて恵まれたる環境にあり。

本市最上の公園として、幾多の施設を見るに至り、特に櫻



の名を以て名高く、更に之より五ヶ瀬川を経て北部に今山公園あり、大瀬川を隔て、南に愛宕山公園等存在し、遠くは北方に可愛嶽の古戰場其の他名所舊蹟散在し、遊覽都市としても亦大いに見るべきものあり、遠くより此處に遊ぶもの多し、愛宕山麓一帯並に北部の祝子川に近接したる一帯には工業地帯として、廣大なる敷地を設けられ、各種の工場巍然として聳へ、市内は都市的施設日に／＼進展し、新興の意氣正に天を呑むの懐あり。

城山城趾は舊藩主内藤氏の居城せられし地にして、現在

延岡市は舊幕時代藩主内藤氏の居城せられし地にして、

往昔より夙に城下町とし開けしも之が市制の施行を見たる

現在、大資本による工場として、我が延岡に君臨し、且

は昭和八年二月である今日の工業都市として隆盛を見るに至りたる

つ新興延岡を背負つて行くものを舉ぐれば次の如くである。

記

は蓋し最近の事にして、以前は唯城下町として發達し、近代的都市とは遙かに縁遠き状態であつた。

一、旭ペンベルグ絹絲株式會社延岡藥品工場

然るに市内を貫流する五ヶ瀬、大瀬、並に北部の祝子川等の水質頗

二、同 延岡ペンベルク工場

る良好なるを斯界に認識されるに及び、初めて化學工業都市として

三、同 延岡レヨン工場

最適なる候補地となるに至り、大正十二年十二月、日本窒素肥料株

四、同 延岡曹達工場

式會社延岡工場の建設を初めとなし、爾來之を契機として幾多の大

五、日本窒素火藥株式會社延岡工

工場建設され、茲に近代的都市の形體を醸成し、都市的各種の施設

第 九 場

を実施すべく餘儀なき事態に逢着したのである。

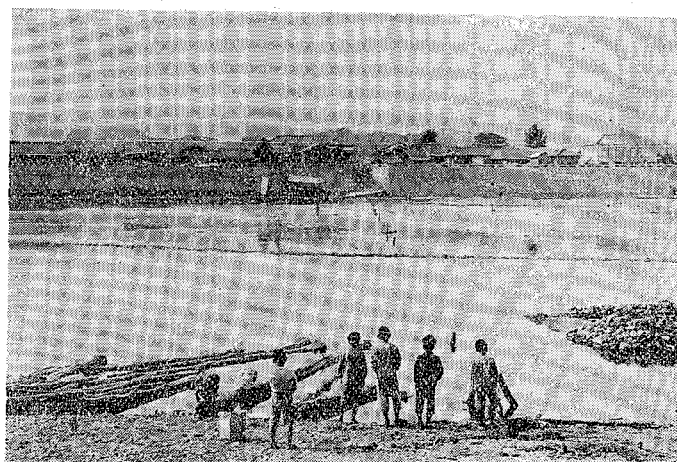
以上の工場相次いで建設されるや一躍して産業都市より化學工業都市として發展を遂げるに至つた、更に

セルロイド工場の建設、其他の大會社の漸次注目する處となり、茲に全

社の漸次注目する處となり、茲に全

く工業都市としての基礎を築くに至り、正に東九州に於け

く工業都市としての基礎を築くに至り、正に東九州に於け



る首位を占めんとしつゝあるは本縣の商工業發展上誠に祝福すべきである。

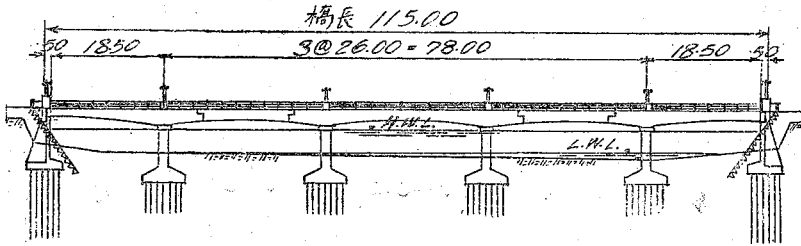
二、國道と板田橋、大瀨橋

延岡の市街方式は大體長方形なるも道路幅員狹隘にして、而も迂途曲折し系統的道路としては見るべきものなく延岡城を中心とせる城下であつた。

古き傳統の下に發達し來つた延岡が、工業に適する條件を具備したるため、近代化學工業としての大殿堂を築成し、急激なる都市の膨脹を招來せしむるに至つたのである。

之を人口狀態により觀察するに、大正九年の人口二萬四千人に對し、昭和九年には一躍五萬人を突破せる一事實を以ても、如何に其發展の程度著しきかを推知し得べく、而して斯くの如き

板田橋



顯著なる人口増加の現象は、延岡が一躍して工業都市として發展せる結果にして、從來の市街狀態では到底完全なる都市格を構成すること不可能である。故に延岡市を近代都市として發展せしめんとするには次の條項の具體化にありと着眼し、之が實現に向つて邁進するに至つたのである。即ち

十 一、延岡驛前廣場の擴張

二、國道の變更と板田橋、大瀨橋の架設

三、國道事業と都市計畫街路

以上の三つである。之等の實現は延岡市の改善であり、都市膨脹に對する緩和策でもある、而して之が進捗狀態を觀るに、

一、延岡驛前廣場、現在の延岡驛前廣

場は大正十二年十二月、日豊本線開通の際新設せられたる

る一帯の地積三萬六千坪の延岡市第一土地區劃整理組合が

ものにして、當時の延岡町の狀態

設立された。

よりすれば適當なる地積なりしも

本組合設立の目的は

現在人口五萬人を突破し、尙將來

一、現在廣場地積一、二〇〇平方

益々發展せんとする都市の支關に

米を四、〇〇〇平方米に擴張

於ける廣場としては、聊か貧弱な

二、支關通幅員一八米を三六米に

る議を免れざる感あるも、狹隘な

擴張

る廣場、道路を擴張するに於ては、

三、衛門山を取毀し田地の地上

尠くとも十萬圓の買收費を要し、

四、地區内の主要幹線補助道路の

他に幾多の緊急事業を控へる關係

實現

上、局部的に巨額の費用を投ずる

第十圖

此支關道路の定規を見るに、全幅

ことは市の財政的立場より不可能

員三六米、幅員一三米、高速車道を

である。

中央にして、幅員各五米の低速車道

然るに延岡驛を中心とする一帯

を其西側に配し、兩車道間には幅員

は低地であり不整形の土地多く、

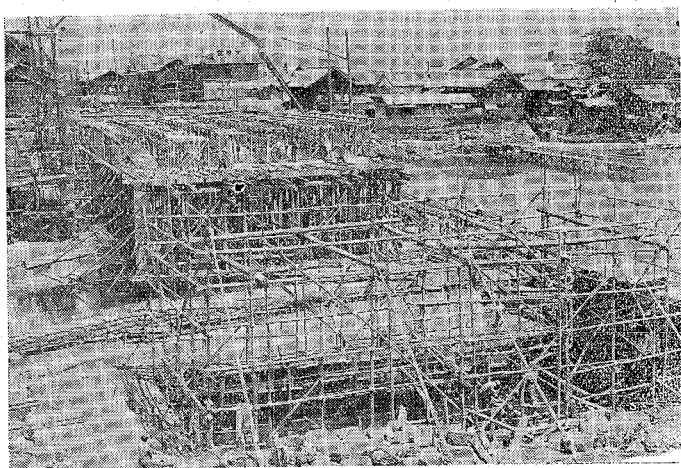
一・五米、長さ九米の植樹帶合と四帶

此儘放任するに於ては將來住宅化

を配置し、中央に南國獨特の情緒を

すること困難なるに鑑み、昭和九年二月、同驛を中心とす

表す、一ツ葉外側に幅員各五米の歩道を設け、歩道には公



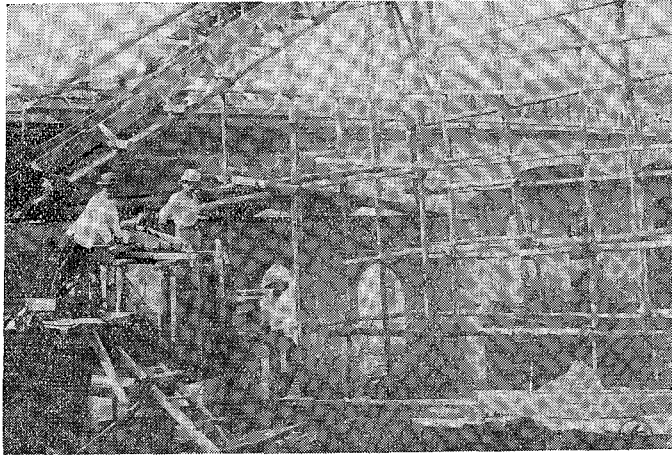
孫樹を植栽し、交通の安全と行人の慰安とを期し 今上天
皇陛下の幸行を記念として第八圖
の如く實現せり。

二、國道の變更と板田橋、大瀨
橋

延岡は舊城下町の關係上國道筋
にある橋梁として、板田橋、大瀨
橋存在すると雖も兩橋とも、幅員
四米にして、其腐朽甚しく交通に
對し其危險甚しかりしも、國家の
財政的都合上實現せず今日迄遷延
せる状態であつた。

然るに多年の地元民の熱望と君
高知事、城戸土木課長の指導宜し
きを得て、昭和九年の匡救事業と
して、豫算二〇萬圓を投じ、板田

橋架替及取付道路を幅員一一米に擴張國營にて執行するこ



とに決した。

次に大瀨橋も板田橋に比較し、其
腐朽甚だしく此好機會を捉へ、繼續
的に國營にて實現せんことを要望し
た。然るに現存せる國道の一部は市
の西域に偏するため、將來の交通幹
線としては適當ならず、故に現大瀨
橋と須崎橋との中間に（第九圖）新
架橋を架設することは、最も理想で
合理的であることは議論の餘地なが
りしも、地方の政治的紛擾を醸成せ
んことを慮り今日迄實行すること能
はざりしも、丁度此時延岡第一土地
區劃整理の順調なる工事の進捗と敏
捷なる換地處分の解決、地價騰貴に
よる地主の利益多大なる等、數多の

實踐に刺戟せられ三ツ瀨を中心とする有志相集り、國道の

位置變更、新架橋設置の實現につき蹶起するに至つたのである。

而して此問題を實現容易ならしむるには道路敷地の無償提供にありとなし、都市計畫街路を中心とする一帯地積七萬坪を擁する區域を以て延岡市第二土地區劃整理組合が昭和九年八月三日設立されるに至つた。地區内の都市計畫街路幅員一八米、延長九〇〇米にして延岡都市計畫街路として、昭和九年八月二三日正式内閣の認可を得た。

三、國道事業と都市計畫街路



己むを得ぬものとなし、昭和九年十月四日板田橋の南詰地

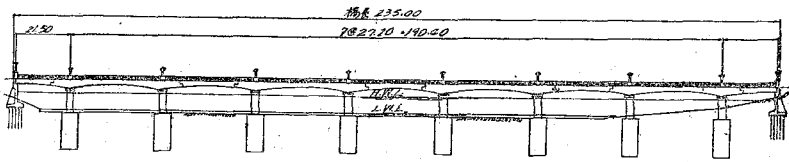
都市計畫街路の決定は延岡市第一第二土地區劃整理の都市計畫街路を實現することになつたに拘らず、都心部に於ける板田橋を中心とする一帯は何等の對策を見るに至らなかつた。而して同地帯は交通最も輻輳するを以て、道路幅員一八米にて工事を執行することは、新興都市としての體面を損するのみならず、幅員狹隘なるを以て近き將來再び擴築する必要あることは、火を見るよりも明にして又將來の擴築困難なるのみならず工事費も多額を要し、實現不可能なりと碣破し、之を實現するには此際地元民の犠牲と市費用負擔の

積二四、〇一七坪を以つて、延岡市第四土地區劃整理組合。北詰に地積一〇四、〇八五坪を擁する、延岡市第三土地區劃整理組合の誕生を見るに至つた。

茲に於て總工費三六三、〇〇〇圓にて板田橋（第一〇、一一、一二、一三圖）の幅員一米を一五米に、南詰延長二二四米、北詰延長二九七米を合し幅員一八米に擴張實行することになつた。

板田橋は總延長一一六米に及び、内務省が工事着手してより組合に於ては物件移轉費に於て約一六二棟を九ヶ月間に於て完了し、行幸道路として、其榮を荷ふが如き又市街の密集地に於て然も經濟的に且合理的に幾多の困難を突破し、何等の紛擾なく實現し得たるが如きは確に天下に模範として誇るに足るであらう。

大瀬橋



第十四圖

次で大瀬橋（第一四圖）も昭和十年に於て工事費一五萬圓を投じ下部構造をゲルバー式にて工事中である、昭和十一年度に於て上部構造及國道取付橋の南詰（第二土地區劃整理）延長七〇〇米、北詰（第四土地區劃整理）延長一三五米間は十一年度に於て内務省が事業着手の見込なるを以て、第二、第四土地區劃整理組合は其の筋に於ける工事に何等の支障なきやう物件移轉中である。即現在の國道延長二、一三四米が新國道延長一、七五七米に短縮され（第一五圖）然も幅員一八米に完成するの目標に迫り、市街密集地に於て四十二萬坪（第五土地區劃整理を含む）の殆んど八割までが土地區劃整理事業に着手されるが如きは全く類例を見ざと處である、火災とか天災により實現したる例は多く見聞する處なるも何等の災害なきに、然も斯くの如き廣大なる

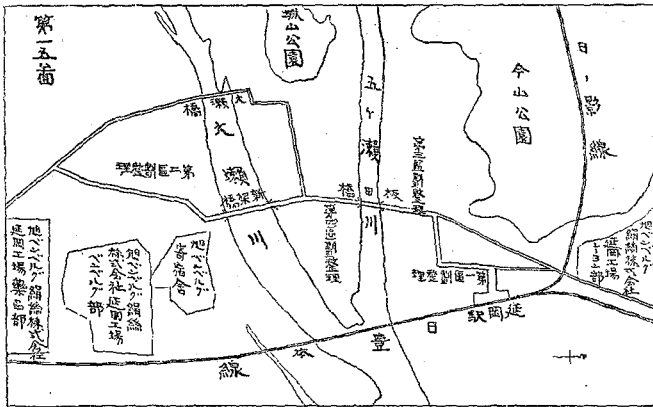
市街地域により實現したるが如きは宮崎縣は云ふに及ばず

我國各都市に對して大いに誇り得るものである。而して之が實現し得たる原因は、内務省、縣廳の指示誤らざりしと、市長及市會各位の卓見並に地元民の了解による協同一致の精神と、麗しき助力により實行されたるものにして、新興工業都市としての發展は期して待つべきものあるを疑はない次第である。

次に之が内容を列擧すれば

一、板田橋及取付道路

事業費	三六三、〇〇〇圓
國	一三三、三三三圓
縣	三三、三三三圓
市	一〇四、三七四圓



第十圖

移轉費

組合

九一、九六〇圓

(補償費、市補助)

(敷地、組合負擔)

二、大瀨橋

十年度事業費 二二〇、五〇〇圓

國 一〇〇、〇〇〇圓

縣 二五、〇〇〇圓

市 九五、五〇〇圓

三、大瀨橋及取付工事

工事費 二〇〇、〇〇〇圓

移轉 八〇、〇〇〇圓

四、用地費(但土地は無償提供)

二五〇、〇〇〇圓

計 一、一一三、五〇〇圓